

第 28 回 神戸市公立大学法人評価委員会 議事要旨

- 1 日 時 令和 3 年 7 月 21 日 (水) 10 : 00 ~ 12 : 00
- 2 場 所 三宮研修センター801 会議室
- 3 出席者
 - 委 員 伊藤恭子委員、岡田豊基委員、嘉納未来委員
三成美保委員、吉井昌彦委員
 - 外国語大学 田中理事長、椋野理事、田村理事、光永理事、北見理事ほか
 - 事務局 (企画調整局) 辻局長、民部課長ほか

4 議 事

議題 1 委員長及び委員長代理の選出について

委員任期満了に伴い、神戸市公立大学法人評価委員会条例の規定に基づいて、委員長として互選により三成委員が選出され、委員長代理に岡田委員が指名された。

議題 2 2020 (令和 2) 年度業務実績に関する評価について

令和 2 年度業務実績について、外国語大学より各委員へ説明が行われ、各委員から下記のとおり質疑がなされた。

その後、評価委員会の評価案について事務局より説明を行い、評価の審議を行った。審議の結果、法人の自己点検・評価のとおり、全体としては順調に進捗していると認めるとの決定がなされた。

(主な質疑)

グローバルに活躍できる人材の育成

(委員) 開かれた大学院教育として、学生を 2 人送り出したとあるが、昨年度のコロナ禍の状況で海外の大学へ本当に送ることができたのか。

(大学) 実際に新型コロナウイルス感染症が拡大する前の 2 月中に行った。

(委員) 学生支援について、昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で多くのサポートが必要となったと思うが、具体的にどのようなことを行ったのか。

(大学) 金銭的な支援に加えて、JASSO 等への奨学金関係の紹介、サポートが必要な学生への学生相談室での支援を行った。授業については、昨年度前期はやむなくオンラインとなったところがあるが、学生の意見も踏まえ秋からは 1 年生から優先的に対面授業を始める等の対策をとった。また、オンライン授業に対応するため、大学施設の通信環境の増強を進めており、今年度も無線 LAN 帯域の大幅拡張を行った。授業をどのように行うのが一番良いのかは、今後も検討していきたい。

(委員) 寄付金の減額について、他大学では同窓会へ学生の困りを訴え、寄付を呼びかけ

ることにかえって多くの寄付を得られているところもある。日頃の同窓会とのつながりの弱さがこの寄付金減少に結びついているのではないか。

(大学) 同窓会には、図書カードの配布や情報機器の調達に協力をいただいたところであるが、ご指摘いただいたとおり、日頃の同窓会とのつながりをもっと緊密にするよう連携強化を図っていきたい。

(委員) 中期計画のグローバルに活躍できる人材の育成という計画のなかに、入試制度の再構築、学生支援という内容が含まれているが、グローバル人材の育成とどのように関わるのか。グローバル人材育成の視点をもう少し盛り込むべきではないか。

(大学) 入試に関しては、アドミッション・ポリシーに基づき実施しており、このポリシーと一体的に運用するカリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーに基づいた教育を行い、社会への送り出しを行っていることから、間接的な繋がりはあると考えている。また、学生支援に関してはある種インフラ部分と捉えており、学びの環境を整えることでグローバル人材を育成するための教育につなげている。

(委員) 第2部英米学科について、生涯学習、学びなおしと組合せながら検討してはどうか。設置基準等の制度面からも今は変容するチャンスでないか。

(大学) 第2部英米学科の在り方については、設置基準等の状況を注視するほか、ご指摘のとおり生涯学習、学びなおしとの関わりの検討に加え、コロナ禍で一気に普及、浸透した新しいツール利用の可能性も含めて検討していきたい。

(委員) カリキュラムマップは昨年度初めて作成したのか。

(大学) 初めて作成した。

(委員) グローバル人材育成支援事業、スーパーグローバル大学創成事業に採択された大学は人材育成に全学をあげて取り組んでいるだけでなく、設立団体と太いパイプをもち、強いバックアップのもと人材育成に努めている。神戸市外大もできることはもっとたくさんあると思われるので、刺激的な取り組みを行いアピールすることで優秀な人材を集めることができるのではないか。

大学ブランドの確立と戦略的な魅力発信

(委員) 戦略的かつ効果的な魅力発信について、昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響を強く受けたと思うが、ガイダンスの機会が減ったことなど、通常の広報活動ができなかったことで志願者に影響はあったか。また一般広報に関して、ウェブサイトの閲覧件数は、2019年度比で増加しているなど自己評価以上に努力が見えるが、ウェブサイト閲覧数が増加したことについて何かコメントがあれば頂戴したい。加えて、新型コロナウイルス感染症対策に関する情報発信について、神戸市外大での対応をウェブサイト上で総合的に見えるようなページを作成することがアピールにつながるのではないかとと思われるため、一元的に見えるページの作成などを検討してみてはどうか。

(大学) 昨年度は共通テストやコロナ禍で受験生の動きが従来と異なる要因が多く、入試

広報の効果測定が難しいが、結果的には、幸いにも昨年度の入試倍率は平年並みで乗り切ることができた。入試広報の効果の検証については、経年的に測定方法も含めて検討したい。ウェブサイト閲覧数については、対面でできない状態で何とかアピールしようと錯誤した結果、ウェブ上での実施が増えたことによると推測はするが、検証というところまで至っていない。新型コロナウイルス感染症に関する総合的なページについては、色々な方がアクセスするホームページをどのように見せていくかについては問題意識をもっているところで、いただいたご意見を参考にしながら充実させていきたい。

神戸と世界の架橋

(委員) 優秀な語学教員の養成について、教員採用試験の結果が厳しいものであった。英語教員の養成は、将来的にグローバル人材を育成することができる人材を育てるといふ価値があるため、十分検証のうえ改善を図っていただき、外国語大学としてアピールしてほしい。

(大学) 教員採用試験の結果に関しては、重く受け止めている。なお、今年度については、現時点で教育実習希望者が昨年度の倍であること、昨年度活動できなかった教職勉強会を再開できていることから学生のモチベーションは上がってきていると推察している。昨年度のようなことがないように力を入れていきたい。

柔軟で機動的な大学運営

(委員) 働き方改革について、在宅勤務を導入したとあるが、中には業務内容から出勤を余儀なくされる方もいると思われる。どれくらいの方が対象となり、利用したのかお聞きしたい。

(大学) 教員は可能な限りオンラインでの勤務としている。事務職員については、時差出勤に加えて、緊急事態宣言下では原則週 3 日以上は在宅勤務とし、宣言解除後も原則週 1 日の在宅勤務を継続している。環境整備については、新型コロナウイルス感染症対応に関わらず、働き方改革として今後も取り組んでいきたい。

(委員) 認証評価について、次回受審は 2023 年度となるが、現状から PDCA サイクルを回すだけの余裕があるのか懸念がある。このスケジュールで行くと PDC まではいくが、A までには至らないという厳しい状況だと思われるので頑張ってください。また、教員の教育研究評価に関して、国立大学では、2019 年度に出されたガイドラインにより教員評価を処遇に結び付ける取り組みが進んでいるが、神戸市外大での取り組みはどうなっているかお聞きしたい。

(大学) PDCA を回すことが次の認証評価で必須であることは認識している。残された時間はタイトであるが、何とか乗り切りたい。教員評価については、教育に関しては FD 活動などの取り組みを行っているが、研究に関しては、専門分野も多様で評価の方法が

最大の問題である。どのようにしていくかは今後相談となる。

その他

(委員) 今年度の業務実績報告書に記載のある昨年度数値と昨年度の業務実績報告書で数値が異なっている点が散見される。

(大学) 確認させていただく。

※確認後、数値について誤りが見られたため報告書を修正し委員に確認。HP には修正前と修正後を掲載。

議題3 財務諸表、利益処分についての報告について

議題3について事務局及び外国語大学から一括して説明を行い、審議の結果、委員会として了承された。